NIE実践報告

1．タイトル：**双六を作って遊ぼう**

2．学校名

三重県鈴鹿市立玉垣小学校

3．実践者名（代表者名）

近藤泰典

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

生活科・算数　25人

6．単元（本時の学習課題）名

昔の遊び「双六」・数の勉強（20より大きいかず）

7．目標(狙い)

双六の遊び方を理解し、その楽しさを味わう。収集した新聞の写真を持ち寄り、協力して双六を作ることができる。数の順番を間違えずに書くことができる。作った双六で楽しく遊ぶことができる。

8．評価の視点

選んできた写真に対する思いが表れているコメントになっているか。マスに書く数の順番が間違わずに書くことができたか。グループ内で協力し合って作り、楽しく遊ぶことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「20より大きいかず」（東京書籍）　[算数：7時間]
「昔遊びを楽しもう」　[生活科：8時間]　合計15時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「20より大きいかず」を学習し、100までの数を数唱できると共に、書く練習をする。　(6時間)
②算数の教科書の最後の折り込みについている双六を体験する。　(1時間)
③昔遊びで「双六」（お正月の遊び）を知り、そのおもしろさを感じる。　(2時間)
④新聞記事の写真で、収集しておいたお気に入りの写真を持ち寄り、双六作りをする。　(4時間)
⑤できた双六で楽しく遊ぶ。（色々なグループを回って体験）　(2時間)

（留意点）

- **数の順番を間違えないように支援する。**
- **1年生では、レイアウトを考えるのが難しいので、ヒントを与えたり、構成を支援する。**
- **収集してきた写真には、思い入れがあるので、そこを聞き出してコメントを考えるのに生かせるように支援する。**
- **グループ内で、持ち寄った写真の中で、スタート・ゴールにふさわしい写真を選ぶために、それぞれの思いを発表し合い、グループの総意で写真を決定させる。**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

双六遊びにふれる機会が少ない時代で、双六のおもしろさを味わうことができて、とても新鮮で喜んでいた。また、作成時に、写真に合わせて、「○○だから１回休み」「○○だから5コマすすむ」等コメント考えるのをとても楽しんでいた。どの児童も、出来上がってからしっかり遊ぶことができた。

12．成果と課題

算数科の「数の勉強」と生活科の「昔の遊び」と合わせて、双六の楽しさを体験できたことはよかった。1年生で、NIEに取り組むには、保護者の絶大なるバックアップが不可欠である。「家族で新聞に親しめる機会を与えてもらって良かった。」等の感謝のコメントが多かったので、取り組んで良かったと感じた。しかし、最近では、外国籍児童の増加と、新聞を取らない家庭の増加で、家庭の協力ばかりも言っていられない状況にあると感じた。